

令和5年度 第3回公益財団法人新宿未来創造財団評議員会 議事録

1 日 時 令和6年3月27日(水) 14時00分～16時00分

2 会 場 新宿コズミックセンター 5階大研修室

3 出席者 評議員現在数16名 定足数9名

[評議員出席者]

評議員 石崎 洋子	評議員 岡室 美奈子	評議員 菊地 加奈江
評議員 金 根熙	評議員 佐原 勇	評議員 島田 治
評議員 高橋 美由紀	評議員 多部田 里志	評議員 村上 喜孝
評議員 柳田 富美子	評議員 山田 和男	評議員 大和 滋
評議員 吉澤 敏		

以上13名

[同席者]

理事長	酒井 敏男
事務局長(常務理事)	加賀美 秋彦
企画経営部長	岡田 健一
地域・子ども部長	岸田 心
スポーツ・マラソン部長	神崎 章
文化・芸術振興部長	岡崎 保

以上6名

欠席者

[評議員欠席者]

評議員 有賀 靖典 評議員 菅野 秀昭 評議員 齊藤 正之

以上3名

4 議長 評議員 石崎 洋子

5 議題

(1) 議事事項

議案第18号 常勤役員(理事長)の報酬月額の改定について

議案第19号 令和6年度事業計画及び収支予算について(資金調達及び設備投資の見込み含む)

※議案1号～16号については6月28日に開催した第1回評議員会にて議決された。

※議案17号については12月14日に開催した第2回評議員会にて議決された。

(2) 報告事項

- ①パートタイム労働者の賃金の未払いについて
- ②職種の再編成及び職位の新設について
- ③「役員賠償責任保険」の加入について
- ④令和6年度資金運用の執行方針及び計画について
- ⑤特定費用準備資金の保有について
- ⑥規程の改正について
- ⑦規則の改正について

⑧令和5年度事業計画及び収支予算の補正について

⑨第21回新宿シティハーフマラソン・区民健康マラソンの実施結果について

6 定足数の確認

評議員現在数16名中13名の出席があり、評議員会運営規程第9条の規定により、評議員会は有効に成立していることを確認した。

7 議事の経過の概要及び結果

定款第18条の規定に基づき、出席評議員の互選により石崎洋子が議長に指名され、出席評議員の同意を得て、本評議員会の議事録署名人に高橋美由紀、大和滋の2名を選任し、議事に入った。

(1) 議案第18号 常勤役員（理事長）の報酬月額の改定について

加賀美常務理事から議案第18号について、資料に基づき説明が行われた後、議案を原案どおり出席者全員一致で可決した。

(2) 議案第19号 令和6年度事業計画及び収支予算について（資金調達及び設備投資の見込み含む）

加賀美常務理事、岡田企画経営部長、岸田地域・子ども部長、神崎スポーツ・マラソン部長、岡崎文化・芸術振興部長から議案第19号について、資料に基づき説明が行われた。続いて本議案に対して、以下のとおり質疑応答が行われた後、議案を原案どおり出席者全員一致で可決した。

柳田評議員（質問）

「基本方針の5番目に挙がっている区民ニーズをはじめとした外部環境及び内部環境の調査分析に基づく既存事業の見直しについて、調査や分析を行うための具体的な体制や計画はこの事業計画の中に入っているか。」

二反田企画経営課長（回答）

「調査分析については、現段階でも実施しているが、事業実施後のアンケートや現場での対話をとおして、区民ニーズを吸い上げ事業に反映していく。

今後の取組としては、アンケート内容を担当課だけでなく財団全体に生かせるように、共有する方策や体制を整えていく予定である。」

柳田評議員（質問）

「区民の声や、実際に事業に当たっている職員の声を財団全体として吸い上げる体制が具体的にないと、今後の見直しにつながらないのではないか。」

二反田企画経営課長（回答）

「区民ニーズは、社会状況の変化に応じて年々変化するものと認識しているため、区民の声をしっかり形にできるように、現場で聞いた話を組織内で共有、対策を練るという体制を取っていきたいと考えている。」

岡田企画経営部長（回答）

「体制や仕組みについての補足だが、現状、事業の振り返り等を行っているが、事業評価の仕組みも今年度見直しを図っているところである。参加者からのアンケート等を広く集める方法についても、ICT技術の活用を検討している。また、事業評価の中にもそういったものを入れ込みながら、現状を組織的に把握し、次年度以降の事業計画や予算に反映する仕組みも検討している。」

柳田評議員（質問）

「質問した意図としては、事業を概覧した際に、新規、拡充、廃止が少ないのではないかと考えた。漠然とした言い方で申し訳ないが、事業が硬直化している可能性があるのではないかと感じたためである。」

岡田企画経営部長（回答）

「新規事業が少ないといったことについては、2年ほど前に、謎解きワールドタウンという事業と、アーバンスポーツイベントという事業を立ち上げている。立ち上げの際は、まずは3年間限定で実施し、ニーズを探りながら、区民の方々から支持を得られた事業であれば継続

も考えてきた。来年度は3年目に当たるがこれらの事業については継続して実施していく見込みである。

また、新規事業を展開するためには財源が必要となる。これまで、事業の収支見込み等や、収支相償の関係もあり、財源確保に課題があり新規事業が立てづらい状況にあった。しかし、公益法人改革が進んでおり、これまでよりも収支相償の縛りが緩やかになり、単年度でいわゆる公的目的事業が黒字となった場合も、それを積み立てて様々な事業に使っていくことが可能となる見込みである。そのため、財源的に少し自由になる部分がある。そういったことも念頭に置きながら、新しい事業展開を考えていきたい。」

山田評議員（質問）

「コミュニティスポーツ大会について、種目は長年ユニカール、ビーチボールバレー、輪投げがあり、ポッチャが最近追加され4種目となったが、種目について今後見直しは行われるのか。また、地域スポーツ・文化事業について、施設は学校の施設を利用していると思うが、中学校のクラブ活動が活発になり、施設が使えない状況が多いと聞いている。その結果、種目や実施回数が減ったということはあるか。」

桑島地域交流課長（回答）

「コミュニティスポーツ大会の種目については、中央大会に準じて種目を設定しているが、状況を見ながらスポーツ推進委員とも連携し、変更等も検討したいと考えている。地域スポーツ・文化協議会については、中学校は土日に使えないというケースは非常に多いが、それは以前からのことであり、直近で施設が使えないため、種目や実施回数が減ったということはない。また、地域スポーツ・文化協議会では小学校を使うことも多く、継続的に実施できていると考えている。」

山田評議員（質問）

「種目については中央大会に準じているのは承知しているが、近年、ビーチボールバレーが非常に高度な種目になっていると感じており、区民の方が楽しむスポーツよりも大分ハイレベルな試合になっているのではないかと考えている。ビーチボールの廃止を求めるわけではないが、もう少し区民の方が参加しやすいレベルの種目も検討していいのではないかと考えている。また、地域スポーツについても、以前より周知のポスター等をあまり見かけなくなったと感じている。そのため、活動が少なくなっているのではないかと考えていた。」

桑島地域交流課長（回答）

「ビーチボールバレーについては、そういった意見は既に頂戴しており、財団としてもスポーツ推進委員と協議をしている。今後も適切な種目について検討を進めていきたいと考えている。また、地域スポーツ・文化事業については、コロナウイルスにより活動が一度中止になった後も引き続き活動を縮小している地域もある。」

島田評議員（質問）

「区民へのインフォメーションの方法について、今後の取り組み等はあるか。」

二反田企画経営課長（回答）

「事業周知については広報紙がメイン媒体となっているが、ウェブサイトや、メールマガジン、フェイスブック、LINE等幅広く様々なツールも活用し周知を行っている。また、来年度については、コズミックセンターの玄関前にサイネージの設置を予定しており、明治通りを通行する区民にも、画面を通じて財団の事業を周知していきたいと考えている。そのほか、導入をしていないSNS等のツールについても効果的な活用ができるか引き続き検討し、より広く区民の皆様へ事業を周知したいと考えている。」

岡田企画経営部長（回答）

「今年度の取組については、財団ホームページに今後実施する事業や展示等がカレンダー形式で表示されるイベントカレンダーを導入し、今後何が実施され、現在何を受付しているのかが一目でわかる様にした。更に、外国人利用者の利便性向上を目的とし、自動翻訳システムを導入し121言語に対応した。また、コズミックセンターの2階大体育室前にプロジェクターを設置し、事業の案内等を壁面に映し出している。さらに、施設案内についても、コズミックセンターのホームページに、グーグルストリートビューを導入し施設内を360度閲覧で

きる状態とした。今後も様々な方法を探りながら、区民の皆様方に情報を届けていきたいと考えている。」

大和評議員（質問）

「新宿文化センターの改修については、順調に進んでいるのか。」

八木原参事（回答）

「施工を担当している新宿区からは、遅れているという話は伺っていない。予定では来年の10月に開館する予定である。」

柳田評議員（質問）

「文化センターについて、来年の9月末まで長期休館ということだが、その間の職員の業務は、資料では問合せ対応や窓口業務ということになっているが、実際のところ職員は何人いて、窓口業務、問合せ業務以外には何をするのか。」

八木原参事（回答）

「文化センターの管理を所管している文化・振興学習課の職員は21人である。なお、の中には、生涯学習館の館長も含まれている。業務については、まず窓口業務には、文化団体の相談も含まれている。例えば、文化センターが閉まっていることにより、活動場所や発表場所に困っている団体に対して、区内外での活動場所や施設の紹介を行っている。次に、生涯学習館の管理も私どもの課の業務となっているため、その業務も行っている。さらに、アウトリーチ業務ということで、これまで文化センターで行ってきた事業を近隣の文化施設である、東京オペラシティや矢来能楽堂等で実施し、事業を継続している。」

8 報告事項

(1) パートタイム労働者の賃金の未払いについて

岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。

(2) 職種の再編成及び職位の新設について

岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について以下のとおり質疑応答があった。

村上評議員

「一般職の横にスタッフ職という表記が残っているが、スタッフ職という名称はこのまま使うということか。また、スタッフ職上級と職域限定主事の関係について主事が地位的には上ということか。」

二反田企画経営課長

「スタッフ職については、今後もそのまま役職として残る。スタッフ職から職域限定主事への転換については、職務内容が広がることになるため、個別に確認をし、希望した職員のみとなる。

また、昇任に関しては、現スタッフ職が職域限定主事となった場合、その上の主任昇任試験を受けることはできない。まず、試験を受け総合主事へ昇任する必要がある。昇任後、主任、係長、課長という昇任のルートが出てくる体制となっている。」

村上評議員

「スタッフ職の人材流出の防止ということで、地域手当の名称を変え3から10%にするということだが、実際的にはどの程度あがるのか。」

岡田企画経営部長

「地域手当という名称にしていた手当が、基本的には月額給与の3%としていたため、次年度以降10%となり、7%程度手当が上がることになる。」

村上評議員

「扶養手当、変則勤務手当は引き下げるのか。」

岡田企画経営部長

「これまでスタッフ職職員・契約職員については、ライン職職員に比べ業務の範囲が限られているため、処遇が低いということもあり、ライン職職員よりも扶養手当等の手当は高く設定していた。しかし今回、業務調整手当を上げるため、他の手当については、総合職と統一化するという動きにした。なので、スタッフ職職員にとっては処遇が上がるため不利益変更には当たらず、扶養手当等は職員全体同じ金額にしたといったところである。」

村上評議員

「要は全体的に標準的に言えば処遇が改善されると理解してよいか。」

岡田企画経営部長

「相違ない。」

- (3) 「役員賠償責任保険」の加入について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (4) 令和6年度資金運用の執行方針及び計画について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (5) 特定費用準備資金の保有について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (6) 規程の改正について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (7) 規則の改正について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (8) 令和5年度事業計画及び収支予算の補正について
岡田企画経営部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。
- (9) 第21回新宿シティーフマラソン・区民健康マラソンの実施結果について
神崎スポーツ・マラソン部長から資料に基づき説明が行われた。
この報告事項について質疑はなかった。

以上で議事を終了し、閉会した。

以上、この議事録が正確であることを証明するために、出席した議長及び議事録署名人は次のとおり署名する。

なお、軽易な文言の修正は、議長に委任する。

令和6年3月31日

議長 石崎 洋子

議事録署名人 高橋 美由紀

議事録署名人 大和 滋